

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立厳木中学校
1 前年度 評価結果の概要	前年度は新型コロナウイルス感染症の渦中にあり、知恵と工夫を試された1年間であったが、生徒指導の3機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定）をふまえて、全職員一丸となって学校教育目標の実現に向けて取り組むことができた。足元を固めたことによって、地域との連携もさらに深まり、教育活動のPDCAという教職員の意識も高まった。学校関係者からも好意的な評価をいただいている。取組内容や具体的取組は効果を上げているので今年度も継続し、成果指標（数値目標）の設定については100%は高すぎるのではないかと学校関係者の意見をを受けて再考することになった。
2 学校教育目標	地域に根つき、笑顔と感動があふれる厳木中学校～主体的、協働的に取り組む生徒の育成～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的に学ぶ魅力ある授業を展開し、学習意欲を高める。</li> <li>生徒に活躍の場を持たせ承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。</li> <li>「立腰教育」を柱として生活規律を確立し、自己指導力と規範意識を高める。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価			
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○基礎・基本的な学習内容の定着を目指した取組	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上 ○家庭学習の時間が一日1時間以上の生徒が60%以上。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・各教科による単元テストの実施することにより、家庭学習に取り組む時間を増やし、基礎・基本的な学習内容を定着させる。(ロフス、ひらひら、定評テストと関連付ける。) ・生徒会本部と学習部による家庭学習の充実を目指した取組。(生徒総会、生徒委員会)	B	・家庭学習時間が1時間以上の全校生徒は、アンケートの回を重ねるごとに増えてきて、65%の生徒が取り組むことができた。しかし、学年別では、中間評価同様、3年生は78%まで増えたが、2年生は同比率、1年生においては65%と減っている。来年度は、学年プラス1時間の家庭学習時間を目標に、学習部を中心として、生徒の意識をより高める働きかけをしていく必要がある。	A	・数値目標を達成している。次年度は、数値目標を上げていく形でよいと思う。
	○校内研究及び校内研修の充実	○12月調査の「知識・技能」及び「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が前年度より向上する全校生徒の割合が60%以上。	・各教科とも、各単元(学習内容のまとまり)において、「課題解決に必要な力」の明確化と学習評価を踏まえた授業計画を作成し、授業を実践する。また、全職員が研究授業を年1回行うことで、授業改善を図る。	A	・全職員が研究授業を実践し授業改善に努め、校内研修によりタブレットの有効利用等に関する理解を深めた。また、12月の県の学習状況調査では、1年生は全教科とも県の結果を上回り、2年生では、昨年度の結果と比べ、学力が向上している教科が見られた。	A	・1・2年生の結果だけが書かれているのは、根拠とする調査の対象者に係るものであるからということが分かった。3年生については、入試結果が物語るている。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおける肯定的な回答をした生徒80%以上	・道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業力向上のための資料提供 ・保護者と連携したふれあい道徳の実施 ・学級通信等による道徳科の授業の紹介	A	・2月に実施した道徳に関するアンケートでは、肯定的な回答をした生徒は、1年100%、2年96%、3年94%、全校97%であった。	A	・道徳が教科となっていること、全校道徳で外部講師を招いたこと、各学年、他者の意見を聞くことで個人の考えが広がったり深まったりする授業が行われていることがわかった。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●職員に相談しやすいと感じる生徒率80%以上。	・毎月、「いじめ・生活アンケート」を実施 ・6月と11月に担任との教育相談週間を実施	B	・相談しやすいと感じている生徒は65%の割合となった。中間とほぼ変わらず、変化が見られなかった。1人1人タブレットもうまく活用して、相談できる仕方も増やしていきたい。	C	・成果指標と照らし合わせると、65%なのでおおむね達成とは言えない。なぜその結果なのかを尋ねてもよいのではないかと。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●朝食喫食率90% ●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%	・保健だより、給食だよりやアンケートを通して朝食を食べることの意義の理解と啓発を行う。 ・栄養教諭と連携し、実践的な指導や調理実習等を行う。	B	・生活習慣アンケートを6月と10月(10月は1週間)に実施。10月の朝食をとって登校する生徒89～98%。 ・「健康に食事は大切である」と答えた生徒(2年)87.5%。 ・12月に3年生の食育教室(そば打ち体験)を行った。地域で生産される食材を目にしたし、実際に触れることを通じて、地域の食文化に関心をもち、食育に関する知識を学ぶことが出来ていた。この取り組みを継続して行っていきたい。	B	・数値として87%なので、目標達成されていない。個別指導をしても食べてこない生徒は限られているのだから。生徒数が少ないので、一人の占める割合が高くなった数値結果だと思われる。
	○健康意識の向上と体力づくり	○自分の体が健康だと考える生徒が80%以上	・スポーツテストの実施 ・授業前の補強運動を実施 ・外部講師を活用した講話の実施	B	・体力の向上を53%、睡眠不足を62%、栄養不足を6%の子どもらを感じている。中間アンケートより、さらに低い数値となった。子どもだけでは難しい部分もあるので、通信などで保護者に知らせ、協力を求める。	B	・睡眠不足の生徒が多い理由は何だろう。 ・コロナ禍で部活動ができなかったことも大きく影響しているのだから。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定	A	・全職員の時間外勤務時間の平均28時間 ・夏季休業中に3日間、学校閉庁日を設定し、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備した。休暇の取得率も高く、年休も20日に近づいた人が複数いた。	A	・月45時間と言われる中で平均28時間、学校としてのいろんな取組はよいので、効率的な働き方をしているということだろう。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価			
評価項目	重点取組内容		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80パーセント以上	・特別支援に関する研修会 ・個別の支援計画の記入についての研修会 ・特別支援学級在籍生徒の進路保障についての研修会	B	・タブレットPCの使用など、UDを取り入れた学習環境の整備を進める事ができた。 ・卒業後の進路について保護者を含めた話し合いを行い、適切な進路保障ができるよう取り組んだ。	A	・特別支援学級在籍生徒2名の希望していた進路保障ができたことが物語るている。
○進路指導の充実	○生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒(中学校3年生)75%以上	・総合的な学習を中心に、全ての教科やふるさと探訪や職場体験、地元企業訪問等の郷土学習を通して郷土を愛し将来の目標に向かって自ら考える時間を確保する。	A	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒(中学校3年生)が、3回目(2月実施)で、目標の75%を超え、78%に達した。高校入試に向けて意識が高まり、面接練習等で自分の将来についてじっくり考えることができたと考ええる。	A	・3年生全員が希望進路を実現したことが、3年間の進路指導の適切さを物語るている。
○生徒会活動の活性化	○生徒に活躍の場を持たせ承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。	○自己肯定感が向上した生徒70%以上	・生徒集会、生徒総会、新入生対面式等の行事で活躍する場をたくさん設ける。	B	・自己肯定感を高めるアンケート項目2つで67%と68%の生徒が肯定的に答えた。特に、2・3年生は、生徒集会、生徒総会などの学校行事等において、本部や専門部長を中心に活動する場面を多くもったことにより、2年生は76%と80%、3年生は72%と68%と、多くの生徒が肯定的に答えていた。しかし、1年生の肯定率が低く、来年度の課題である。	B	・コロナ禍で活動に多くの制限がかかったことも影響しているのだから。(1年生59%)
○地域連携	○いきいき学ぶからつ子育て事業による教育活動	○生徒満足度について肯定的な回答(「楽しかった」「役に立つ」)をした生徒80%以上	・1年魚のさばき教室の実施 ・2年煮魚教室の実施 ・3年食育に係る料理教室の実施 ・全学年朝の読み語り	A	・2月に実施したアンケート調査で肯定的に回答した生徒が1年生91% 2年生96% 3年生88% 全校91%	A	・コロナ禍にあっても活動できてよかったと思う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も新型コロナウイルス感染症の渦中にあり、知恵と工夫と判断を試された1年間であった。規模縮小や代替をせざるを得なかったが、状況判断を誤らずに実施できたことが学校文化の継承の点からも何よりだった。</li> <li>地域との連携もさらに深まり、教育活動のPDCAという教職員の意識も高まった。「学校行事を参観する機会がほとんどなかったことが残念」という学校関係者の声に地域も含めた学校応援団の存在の多さがうかがえた。</li> <li>取組内容や具体的取組は効果を上げているので次年度も継続し、学校教育目標「地域に根つき、笑顔と感動があふれる厳木中学校～主体的、協働的に取り組む生徒の育成～」を推進していく。</li> </ul>
----------------	---